

“父母の心情”で、実質的教会成長を果たそう！

全国教区長研修会を開催

天宙聖和 5 周年までの「120 日特別路程」(5 月 10 日～9 月 6 日)の折り返し地点に当たる 7 月 5、6 日の 2 日間、「家庭連合時代の文化の定着と実質的教会成長」をテーマに、宮崎台国際研修センター(川崎市)で「全国教区長研修会」が行われ、全国の地区長・教区長、本部の責任者など約 120 人が参加しました。今回の研修会は、新しい会議文化の創出を目指し、1 日目は 5 つのテーマを中心にグループディスカッションとテーマ別発表を実施。2 日目は地区別に 120 日特別路程の 2 大目標である二世祝福推進と実質的教会成長についての討議に多くの時間を割きました。

1 日目は、開講式に続いて、徳野英治会長が「家庭連合時代の文化をどのように定着させるか」と題してメッセージを語り、研修会全体の狙いについて説明しました。

その中で徳野会長は、日本家庭連合は①真の父母様の心情・事情・願いへの更なる探求② 3000 名の二世・青年祝福の達成③実質的教会成長 1 万名の達成④県別 1 万名大会に向けての準備と挑戦の開始——など 8 つの主要テーマに今後も取り組んでいく方針を表明。「家庭連合時代の時代精神(パラダイム)と一致して歩むためには、心情的・思想的方向性において一致しなければなりません。そのための疎通と共有の場として、ディスカッションの時間を設けました」と語りました。

さらに、グループディスカッションの 5 つのテーマ——「個人救援と家庭救援の違い」「統一教会と家庭連合の違い」「家庭教会をどのように定着させるか」「心情文化とは何か」「真なる疎通と共有をするために」——の概要を説明。『「家庭盟誓」の 1 節から 8 節まで共通して『天一国主人、私たちの家庭は、真の愛を中心として』とあるように、私たちは主人意識をもって家庭連合時代を築いていかなければならず、そのポイントは真の愛の実践です。家庭連合の時代精神を正確に認識して本部と現場が一体となり、残された 60 日間を再スタートするための研修会であるという認識をしっかりと持って臨んでください』と述べました。

午後は、5 つのテーマごとにグループに分かれ、2 時間のディスカッションを実施。その後、テーマ別の発表は、①グループの代表者 1 人が発表(15 分)② 2 人が補足説明(10 分)③質疑応答(20 分)④全体のまとめ(5 分)



①全体で記念撮影
②総括を行う宋総会長
③メッセージを語る徳野会長
④テーマ別発表における質疑応答
⑤地区別のミーティング

——の流れで進められ、限られた時間の中で踏み込んだ意見交換が行われました。

2 日目は、二世圏祝福の推進や実質的教会成長について本部の担当者が報告した後、地区別に戦略を討議。教区ごとの現状報告と戦略発表を踏まえた上で、各教区の目標と地区の戦略が策定されました。

閉講式では、宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長が総括のメッセージを述べました。

その中で、宋総会長は「120 日特別路程は、実質成長を追求する路程です。(3000 名の二世圏祝福と 1 万名食口の再復帰という) 目標を達成することができる唯一の方法は、我々自身が父母の心情を所有することです。父母の心情で二世圏を見つ

め、父母の心情で休んでいる全食口を見つめ、そして父母の心情で日本全体の国民を見つめようということです」と強調しました。

一方、「来週には米国で真の父母様を迎えて摂理的な大会が開かれます。先日のタイ大会の際に真のお母様に侍っていた時、お母様が摂理の心配をされて『毎日夜も十分に寝ておられない』と語られるお姿を拝見しながら、『日本の家庭連合は、絶対にお母様の前に親不孝になってはいけない』と天の前に決意しました。母の国・日本は、お母様を不安にさせるのではなく、勝利と栄光を捧げる者とならなければならないと改めて心に深く刻んだのです」と述べました。

最後に、「聖和 5 周年までの残りの期間、絶対精

誠を捧げ、必ず実質的成長の結果を天上のお父様、地上のお母様に見せて差し上げる、誇ることでできる皆さんとなってください。そして全世界の食口に日本の家庭連合の成長を示し、それをご覧になる真のお母様の目に喜びが溢れるようにしましょう」と呼び掛けました。

研修会の参加者からは、「今の時に相応しい研修会でした。新しい試みと現場の責任者達の意見を多く取り入れたことが良かったです」「一方的な報告だけではなく、討議と研究発表を取り入れた新たな会議形式だったため、他の参加者の考えや取り組みから刺激を受け、色々和悟ることがありました」といった感想が聞かれました。

精神障がい者の家族が支え合う「天情家族会」が発足

7月1日に“キックオフミーティング”開催



①第4回「家族の集い」
②末吉重人「天情家族会」会長
③阿部美樹家庭教育局長



7月1日、東京・渋谷の松濤本部礼拝堂で「第4回精神障がいのある人の家族の集い」が開催され、全国各地から53人が参加しました。過去3回の集いにおいて、参加者は専門家の講座を通して多くの内容を学ぶと共に、お互いの関係性を深めてきました。これを土台としてこのほど、精神障がい者の家族会である「天情家族会」が発足しました。

精神障がい者の家族は精神的にも肉体的にも負担が大きく、その家庭だけですべてを抱えていくのは簡単ではありません。それ故、そのような家族が互いに助け合うために発足したのが天情家族会です。

天情家族会は、精神障がい者を家族に持つ家庭連合会員であれば、誰でも入会できる任意団体で、宋龍天総会長が命名。初代会長は社会福祉士で、精神保健福祉士でもある末吉重人さん（6000 双家庭）が就任しました。今後は、学習会・交流会の開催やメールマガジンの配信、関連情報の提供などを行っていきます。

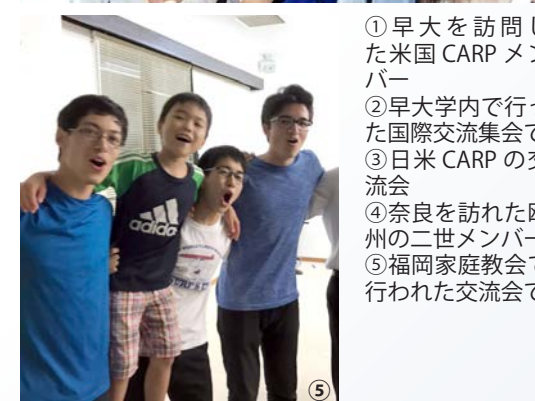
天情家族会の“キックオフミーティング”となった今回の集いでは、権相基総合企画局長が開会の挨拶を行った後、末吉会長が講座を行い、「精神障がいがあってもその人なりの、意義ある人生を送ろう」という「リカバリー」の理念が紹介されました。

次に精神科の医師が講座を行い、過去3回の講義内容のおさらいと共に、参加者に前もって上げてもらった質問を踏まえた解説を行いました。参加者は聞きたかった内容をピンポイントで聞くことができ、効果的な学習の場となりました。

午後は、最初に阿部美樹家庭教育局長が天情家族会について説明。その後、地域ごとに分かれてグループワークを行いました。各家庭の現状を共有すると共に、今後の各地域での家族会活動をどのように進めていくかについても話し合いがなされました。今回の集いが起点となり、各地で定例会が開始されることが期待されます。

日米欧の若者が心の壁を超えて未来を語り合う

米欧の二世圏メンバー約130人が訪日



①早大を訪問した米国 CARP メンバー
②早大で行った国際交流集会で
③日米 CARP の交流会
④奈良を訪れた欧州の二世メンバー
⑤福岡家庭教会で行われた交流会で

6月20日から7月5日まで、米国 CARP のロサンゼルスを中心とした地域のメンバー120人が、「HYO JYEONG TRIP—UNITED WE STAND（孝情の旅—団結すれば我々は立つ）」をスローガンに、日本を訪問しました（6月27日～30日は韓国訪問）。

6月21、22日の2日間は、千葉・浦安の一心特別教育院で原理講義を中心とした修練会を開催。多くのメンバーが、中村惣一郎先生の原理講義、徳野英治会長からの激励のメッセージを通して、真の父母様の価値を深く実感していました。

翌23日には、真のお父様の日本留学時代のみ跡を慕い、早稲田・高田馬場の聖所を巡礼しました。早稲田大学内では、日米の学生が国境を超えて集会を開催。一般の学生も多く参加し、夢を語り合いながら、互いの心の壁を越えていく姿は感動的でした。

24日には、一心特別教育院で日米 CARP の交流会が行われ200人を超えるメンバーが集まりました。午前中は、宋龍天総会長が駆け付け、米国 CARP の一人ひとりに自己紹介をさせながら、「来年はさらに多くのメンバーを連れて来てください」と歓迎のメッセージを語りました。

午後には、日米それぞれの CARP の紹介や証し、そ

して本山勝道 CARP 会長による講話を通じて、神霊的で恩恵の深い時間を過ごしました。

米国の学生は、日本のメンバーが立てて来た伝統に感動する一方、日本の学生は、原理の訓読で復興する米国 CARP の姿に感化を受け、双方にとって刺激的な交流会となりました。

一方、6月27日から8月初めまでの期間、欧州から日本人の母親を持つ16歳～22歳の二世メンバー6人が来日し、各地で二世圏メンバーと交流を深めています。

英国、スペイン、スロバキアからはるるる“母の国”を訪れたメンバーたちは、東京を皮切りに京都・奈良、広島などを訪れて地元の CAPR メンバーと交流するとともに、日本の伝統や歴史などを直に学ぶ時間を持ちました。

一行は7月6日に福岡入りし、地元の CARP メンバーと活動を行ったほか、教会内外の中高生と英会話講座を通じた交流会などを実施。

18日に熊本に移動して以降は、地元の中高生との交流会や被災地ボランティアなどに参加し、7月末に佐賀・唐津の日韓トンネル調査斜坑を視察。8月2日に帰国の途に就く予定です。

真の父母様の子女としての誇りを持って歩もう

宋総会長が第10地区、南愛知教区を訪問

7月前半、宋龍天総会長は第10地区（四国）と南愛知教区を巡回し、真の父母様の愛とみ言を伝えながら、教会員たちを激励しました。今回は第10地区訪問の様子を紹介します。



①第10地区の「出発式」で ②南愛知教区金山家庭教会で説教を行う宋総会長
③青年たちのパフォーマンス（2日、高松家庭教会）
④昼食懇談会で歌を披露する韓国婦人メンバー（8日、東海家庭教会）

梅雨明け前にもかかわらず真夏を思わせるような暑さの7月2日、ちょうど1年ぶりに四国の地を踏んだ宋龍天総会長を香川教区高松家庭教会に迎え、第10地区「7月度および120日特別路程勝利出発式」が行われました。高松家庭教会には、地区全体から牧会者・婦人代表など各教会の代表者や香川教区の食口が合わせて約400人が集まり、各教会をインターネットで結んで参加した約1000人を合わせると、地区全体でおよそ1400人が今回の出発式に参加しました。

出発式に先立ち行われたエンターテインメントは、韓国婦人や小学生部の歌を通して和やかな雰囲気で開催。青年部によるパフォーマンスは、天の前にこれからの青年の躍進に向けての決意表明を行うような歌と踊りが披露され、最後の中高生によるダンスは、若さに躍動する子供たちの姿に未来への希望を感じさせられ、会場全体が盛り上がりました。出発式では、北谷真雄地区長が挨拶し、「120日路程を勝利するためには、私たちが『為に生きる文化』をこれまで以上に体恤していかなければ

なりません。それに向けて先頭に立って歩んでくださっている宋総会長を迎えて出発式ができる事を心から感謝します」と述べました。

宋総会長は、東京やタイ・バンコクでの大会をはじめ、真のお母様の最近のご様子やみ言を紹介しながら、「お母様が語って下さっているように、私たち全員が真の父母様を中心とした一つの家族です。父母様は私たちを子女として見つめてくださっています。自らを卑下せず、自負心を持ちましょう」と語りました。

その上で、「宇宙聖和5周年に向けての120日路程を希望と喜びと感謝をもって一つになっていくなれば、成し遂げられないものはありません。驚くべき奇跡が起きるという確信を持って臨む時に、第10地区は日本のどの地区よりも摂理の先頭に立って勝利する地区になるでしょう」と強調しました。

出発式は、各教区長・教区婦人代表による決意表明、宋総会長による祝福の後、全柱奉愛媛教区長の先導で億万歳を行い、終了しました。

1万名大会開催に挑戦し、真のお母様をお迎えしよう

徳野会長が熊本、宮崎、福島教区を巡回

7月の前半、徳野英治会長は熊本教区（1日）、宮崎教区（2日）、福島教区（8、9日）を巡回し、地元の教会員を慰労しながら、今の時にふさわしいメッセージを贈りました。その中から、福島家庭教会訪問の様子を紹介します。



①福島家庭教会で行われた特別集会で ②メッセージを語る徳野会長（福島家庭教会）
③熊本教区「出発決断式」でみ旨の応援歌を歌う参加者（1日、熊本阿蘇家庭教会）
④宮崎教区の特別礼拝で（2日、宮崎家庭教会）

7月8日午後、福島家庭教会（福島市）に徳野会長を1年ぶりに迎え、特別集会を行われ、地元の食口およそ140人が集まりました。

最初に歓迎セレモニーとして、「フラダンスを楽しむ会」のメンバーと青年ダンスサークル「H-oPE」がダンスを披露した後、趙成旭第2地区長が挨拶を行いました。

徳野会長はメッセージの冒頭、真のお母様が日々の生活の中で真のお父様の事をいつも語られることを証しながら、お母様が霊界におられるお父様といかに一つとなっておられるかを強調。「お父様が誰を通して働かれるか。それはお母様しかいません。もしお父様の名をかたる霊能力者が現れた時は気をつけなければなりません」と語りました。

また、人口56万の鳥取県で鳥取家庭教会が2000名大会を行い、今後は5000名大会、1万名大会を計画し

ていることに触れた上で、「お母様の『県で1万人を集めることができたなら私が行ってあげよう』との祝福のみ言の“呼び水”となったのは、昨年12月に行われた福島家庭教会の2000名大会と岡山教区の3000名大会だったことは間違いありません」と指摘。「だからこそ、それで満足することなく更なる成長をしてください。この第2地区、または福島県にお母様を迎える最後のチャンスだと思い、1万名大会の開催を決意して取り組んでください」と訴えました。

参加者からは「真のお母様が福島家庭教会の2000名大会の勝利を覚えてくださったことはとても嬉しく思います。しかし私たちがその2000名を食口化して初めて、堂々と証しができるのだとも感じました」（40代婦人）といった感想が聞かれました。

真の父母様への忠孝、“一片丹心”に貫く

「43 家庭」周藤董代夫人の聖和式を挙行



① 聖和の辞を語る徳野会長（左）
② 周藤董代夫人
③ 挨拶を行う周藤健先生
④ 献花を行う家族

7月4日、43双祝福家庭で「ポルトガル国家メシヤ」の周藤董代夫人の聖和式が、徳野英治会長を主礼として、東京・高田馬場の新宿家庭教会礼拝堂で執り行われ、43家庭、777家庭、1800家庭などの先輩家庭をはじめ、多くの教会員が参列しました。周藤夫人の聖和を受け、真のお母様は「祝 天城入國忠誠子」の揮毫を下さいました。

周藤夫人は1935年9月、北海道で誕生。61年9月、大阪で入教した後、名古屋、広島、京都などで開拓伝道を行いました。69年5月、周藤健先生と43双祝福に参加。75年からは周藤先生に伴って渡米し、ニューヨークを拠点に歩みながら、真のご家庭に侍りました。92年に帰国した後、96年にポルトガル国家メシヤを拝命。その後も巡回師などを務めながら国内外でみ旨に邁進し、2016年9月からは本部特別認定家庭教会として、夫婦で神氏族メシヤ活動を積極的に推進してきました。7月1日午前8時7分、病気のため聖和、享年81でした。

聖和式は午前10時、近藤徳茂総務局長の司会で開会。周藤夫人の生涯を振り返る映像上映、聖歌讃美の後、堀信義先生（43家庭）が代表報告祈禱を行いました。

主礼の徳野英治会長は聖和の辞で、真のお母様がいつ

も先輩家庭に語られるみ言を紹介しながら、「人生の最期をいかに美しく終えるか。それができなれば真の父母様に忠誠を貫いたことになりません」と強調。その上で「内外において実績をたて、息を引き取る瞬間まで真の父母様への忠孝を“一片丹心”に貫いた周藤夫人の家庭は、『名門家庭』にふさわしい」と述べ、周藤夫人のこれまでの功績に感謝と称賛の言葉を贈りました。

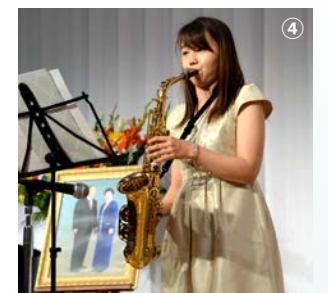
続いて、宋龍天総会長からの特別メッセージを田中富広副会長が代読。全世界の教会員のみ言教育のため尽力してきた周藤先生の妻としての“内助の功”を称えました。

長女の周藤一子さん、43家庭の横井捷子夫人の「送辞」に続き、国内外から届けられたメッセージが紹介。全体で聖歌70番「善き闘いを成し終えて」を讃美し、主礼や家族、参列者が献花をした後、徳野会長が祝禱を行いました。

最後に、施主の周藤先生が挨拶。夫人の闘病生活の最後の期間、海外から家族が駆け付け、夫婦・親子の心情の絆を深める貴重な時間となったことを感動的に語り、聖和式は幕を閉じました。

“韓日和合”と孝情で天の父母様の夢を安着させよう！

第5地区が日韓国交正常化52周年を記念し午餐会



① 参加者全体で記念撮影 ② 主催者挨拶を行う金満辰地区長
③ 5地区韓国婦人会メンバーの合唱 ④ サックスを演奏する祝福二世

「韓日和合と孝情で、天の父母様の夢を安着させよう」をメインテーマに、第5地区（東京）の「日韓国交正常化52周年記念『天聖会』午餐会」が6月26日、都内のホテルで開催され、色とりどりのチョゴリや着物で着飾った約200人が集いました。

第5地区は毎月、金満辰地区長を中心に忠孝家の勉強会の場として「天聖会」を開催。その土台の上に、日韓国交正常化50周年を迎えた2年前から毎年記念大会を開き、今回で3回目となりました。

午餐会は、杉山薫・西東京教区婦人代表の代表報告祈禱に続き、金満辰第5地区長が主催者挨拶で今回の会の目的と趣旨を報告しました。

その後、日韓トンネル建設プロジェクトの最新映像が上映され、“韓日和合”の象徴である「日韓トンネル」に対する意識が高まる中、徳野英治会長が登壇し、約45分間にわたって分かりやすい解説を交えながら講話。世界のトンネルの歴史など多くの参加者が初めて聞く内容も多く、関心を持って聴いていました。

徳野会長は、日韓トンネルは国家レベルで同意が得られれば10年間で完成できるとした上で、「2030年まで長生きして、日韓トンネルを体験しましょう！」と呼びかけると、大きな拍手が沸き起こりました。

会食後のエンターテインメントの時間では、第5地区韓国婦人会メンバーの合唱、祝福二世のサックスホーン演奏、そして最後は竹ノ塚家庭教会聖歌隊による美しい合唱が披露。どれも素晴らしい内容で会場はしばらく芸術的な雰囲気に包まれました。

その後、徳野会長夫妻が登壇し、韓国の歌「黄色いシャツの男」をサプライズで歌った時には、会場の盛り上がりは最高潮に。会場全体からのアンコールに応え、夫妻は続けて韓国語の歌を披露しました。

功労者に対する表彰式があり、最後に全体で「統一の歌」を合唱すると、参加者たちは午餐会のメインテーマの内容を象徴的に体感し、VISION2020勝利のためさらに邁進していくことを改めて決意していました。

第2地区、西埼玉教区で 「天運相続 孝情還元祈願礼式」

日本に清平役事の恩恵を連結

7月9日、天運清平修鍊苑から李命官副苑長と金成南日本事務局局長を迎えて、岩手県滝沢市内の会場で、第2地区（東北）の北部3県（青森・秋田・岩手）合同の「天運相続孝情還元祈願礼式および清平特別講演会」が開催され、600人の教会員が参加しました。会場には、この日のために岩手教区が作成した「清心塔」が正面祭壇に置かれ、清平の霊的な雰囲気を高めていました。

代表報告祈祷、花束贈呈の後、食口が精誠を込めて供えた「祈願書奉納」となり、教区長3人が奉納し、姜政求岩手教区長が告天感謝文を力強く奉読しました。

趙成旭第2地区長と金成南局長の挨拶、清平摂理

に関する映像上映に続き、李命官副苑長が講演し、マレーシアなど海外での清平役事の感動的な証しなどを紹介しました。

7月10日、大宮家庭教会（さいたま市）で、李命官副苑長と金成南局長を迎えて「西埼玉教区天運相続孝情還元祈願礼式」が行われ、朝早い時間から290人の食口が集まり、礼拝堂やモニター室は熱気で満ちあふれました。

祈願書の奉納式、聖歌隊の讃美、鄭日權第3地区長による激励の辞の後、李命官副苑長は講演で、清平役事の恩恵について解説した上で、真のお母様のビジョンと決意を紹介。参加者たちはお母様に対する孝情の心情を深める時間となりました。



講演を行う李命官副苑長（9日、岩手）



講演を聴く参加者（同左）



祈願書の奉納式（同左）

大宮家庭教会で式典に参加した食口たち（10日、さいたま）

“人類一大家族世界を目指して”、 新宿家庭教会で統一運動パネル展

「人類一大家族世界を目指して」をテーマに、7月7日から9日まで、東東京教区新宿家庭教会（東京・高田馬場）で統一運動パネル展示会が開催されました。パネル展には、お隣の中野家庭教会も参加し、地元議員をはじめ、地域住民、伝道対象者などのゲスト200人余りと教会員を合わせた約700人が来場。自叙伝書写の奉納を行った300人を含めると合計1000人が同参しました。

会場は①世界の危機②文先生と統一運動③新宿家庭教会④自叙伝書写——の4つのテーマに分けてパネルを展示。



ゲストにはパネラーがついてポイントを解説し、その後は紹介者と歓談・交流を楽しみました。

ゲストの多くは、真のご父母様が一代で成し遂げた多岐にわたる業績の偉大さに感銘を受けるとともに、新宿家庭教会の具体的な活動の様子を見て親近感を覚えていました。

東京同胞家庭教会でも 「幸せな生き方」をテーマに開催

7月8、9日の2日間、東東京教区東京同胞家庭教会（東京・新宿）でも「幸せな生き方」のテーマにパネル展を開催。韓国の伝統楽器の演奏や韓国婦人会のコーラス、壮年バンドの演奏、二世マンガ同人誌コーナーなどで盛り上がる中、10年ぶりに教会を訪れた教会員を含む約300人が集いました。

初めて参加したあるゲストは「とても雰囲気が良く、来て良かったです」「もっと

と深い内容を聞いてみたい」などと感想を述べ、5人が入会しました。



「第7回関西圏青年学生平和フォーラム」開催

7月2日、「第7回 関西圏青年学生平和フォーラム」が大阪市の会場で開催され、第8地区青年部とCARPの学生の約80人が参加しました。

そのほか地元議員が来賓として参加し、社会や国のために何ができるかをテーマに、それぞれの専門分野からプレゼンや活発な議論が行われました。

